



# 出雲大社函館教會 社頭だより

平成二十三年春季号  
平成二十三年五月発行  
出雲大社函館教會  
函館市高松町三二七―三  
電話 五七―四六七七

## ◇◇春季例大祭社頭講話―要旨◇◇

### 大震災復興の祈り

今年の春季例大祭では、「東日本大震災復興祈願祭」も併せて御奉仕申し上げ大震災復興への想い、願いを参列者の皆様共々に捧げさせて戴きました。

去る三月十一日午後二時四十六分ごろ東北から関東地方にかけてマグニチュード9という国内観測史上最大の巨大地震が発生いたしました。そしてそのあとに大津波が北海道から関東地方の沿岸におしよせました。この巨大地震、大津波により、沿岸の市町村の建物全壊、そして約三万人という死者行方不明者を出しました。皆様方のお知り合いの方々の中にも、被害にあわれた地域にお住まいの方がおられると思います。千年に一度といわれるこの巨大地震により、被害にあ

われた地域の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げます。また被災地におかれましては、一日も早くライフラインの復旧等を願うとともに、皆様のご無事を心よりお祈り申し上げます。

『：被災者のこれからの苦難の日々を私たち皆が、様々な形で少しでも多く分かち合っていくことが大切であらうと思います。被災した人々が決して希望を捨てることなく、身体を大切に明日からの日々を生き抜いてくれるよう、また、国民一人ひとりが、被災した各地域の上にこれからも長く心を寄せ、被災者と共にそれぞれ地域の復興の道の手を見守り続けていくことを心より願っています。』

宮内庁によると、甚大、深刻な被害を皇后さまとともに憂慮し、国民に直接語りかけたといえます。被災なさった方々は、この陛下のおことばに、どんなにか、励まされたことでしょう。

この大震災で犠牲になられた方々のみたまさまのご冥福を祈り、被災なされた方々の悲しみ苦しみに思いを重ねて『天皇陛下のおことば』をしつかりと心にき

ざみ、一人ひとりが一心に「復興の祈り」を捧げたいと思います。

## ◇◇◇

この大災害で被災地では電気・水道・ガス・電話・物流等ライフラインが壊滅状態となり寸断されました。この状況を見て、私たちの生活がいかに、いろいろな仕事をしている人々の「おかげ」のなかで生活しているのがわかります。

この「おかげ」という言葉。他人から受ける利益や恩恵を意味しますが、この「おかげ」に「さま」をつけて丁寧にして「おかげさま」として古来より使われてきました。もともと「かげー陰」とは神仏などの偉大なものの「陰」を指し、その庇護を受けるという意味があります。ですから、古来より日本人は「おかげさま」と言うときには、深い感謝の念をもって使ってきたのです。

このたびの震災で当たり前のように過ごしている毎日が、実は有り難い「おかげさま」の中で生かされていることに気づかされた方も多かつたと思います。ここで『おかげさまで』と題した作者不明の詩を紹介させていただきます。

## 御教歌

出雲大社第八十代宮司  
千家尊福公

うはへのみ  
何しか人の飾るらむ  
錦もうらは

あやなかりけり

### 【歌のこころ】

人は誰しもしあわせな生活を望まぬものはありません。親なる大神さまは、私達がしあわせになるものとの尊い御縁をむすんでくださって、それぞれに処を得させてくださいます。私達の住む社会は、難題山積で生活への不安もひらがつていますが、それだけに一体何が一番しあわせであるかを考えずにはおられません。物に恵まれて立派な家に住み、お金に恵まれて華美な着物で飾り、日ごとにごちそうを食べることが、しあわせな生活であるといえませんが、それはむしろ一時のおごりの生活でありましょう。

自分には有難い身であること深く思い、日ごとの仕事に精を出し、大神さまの「みこころ」にそう「はたらき」をすることが「しあわせな道」でありましょう。

◎出雲大社の祈りの言葉【神語】

さきみたまくしみたまもりたまいさきはえたまえ  
**幸魂奇魂守給ひ幸へ給へ**

この「神語」は、出雲大社第八十代宮司・出雲大社教初代管長千家尊福公が明治時代に、出雲大社の御祭神「だいきくさま」を信仰する人々のため宮司家の秘伝をおさとしになったものであります。尊福公は、著書『神語』の冒頭で、「この詞は天照大御神第二の御子天穂日命の伝え給えし神

**例祭**

**定例の年間祭事**

- ◎元旦祭（新年祈念祭） 1月1日 午前11時
- ◎節分祭（厄祓・星祭） 節分の日 午後2時
- ◎春季祖霊社冥福祭 春分の日 午後7時
- ◎春季例大祭前夜祭 大祭前日土曜 午後6時
- ◎春季例大祭・祖霊社例祭 5月第2日曜 午後2時
- ◎夏越大祓 6月30日 午後7時
- ◎秋季祖霊社冥福祭 秋分の日 午後7時
- ◎秋季例大祭前夜祭 大祭前日土曜 午後6時
- ◎秋季例大祭・祖霊社例祭 10月第2日曜 午後2時
- ◎年越大祓・除夜祭 12月31日 午後10時
- ◎月始祭・祖霊社祭 毎月1日 午前11時
- ◎稲荷神社祭 毎月10日 午前8時
- ◎月次祭・祖霊社祭 毎月15日 午前11時
- ◎龍蛇神社祭 毎月16日 午前8時
- ◎日供祭 毎日 午前8時

祖霊社

◎祖霊祭

出雲大社の御祭神、**大国主大神**の別の御名に、「**幽冥主宰大神**」という尊称があります。幽冥とは幽事の世界、つまり靈魂の世界のことです。私たちは誰もが先祖のおかげで命を戴き、今日を生きているのですから、この数限りない先祖・縁者の**御霊**、さらには**幽冥稚児**（俗にいう水子）の霊を祀るのは、私たちの当然の義務でしょう。

仏教では、普通の人は一定の年数で、「**弔い上げ**」といい、魂は十億土の彼方へ行くとし、法要はしなくなりません。が、本来日本人の考えでは、死後の靈魂は、子孫が住む近くの草葉の陰や山などに留まり、子孫たちの生きざまを見つめている、と考えました。そして**魂は子孫の魂に働きかけ、甦る**、とされました。

このご先祖たちの靈魂を神として祀り、より高い神の位に昇つて戴き、より子孫を見守る靈威を高め、蘇生して戴くための祈りが、

祖霊祭なのです。

出雲大社御本社では、これを「祖霊社大祭」として春分・秋分の日には厳かなお祀りが執り行われています。これに準じ、函館教會でも、お祀りを希望された多くの方々のご先祖の御霊を祀り、**靈威の蘇生**を願ってご奉仕してまいります。

◎一般祈禱

- 家内安全 ○商売繁昌
- 交通安全 ○身体健全
- 厄除祈願 ○良縁祈願
- 進学成就 ○就職成就
- 海上安全 ○大漁満足
- 子宝祈願 ○工事安全
- 病氣平癒 ○諸願成就
- 出雲大社八方除地鎮祭、上棟祭、新宅清祓、店舗開店清祓、結婚式等出張祭典
- その他諸事の御祈禱も、随時受付けております。

◎特殊祈禱

障り除け、悪霊退散、乳幼児虫封じ等の特殊祈禱について、ご相談に応じて随時受付けております。

◎通信祈禱

遠隔地にお住まいの方々のために、諸祈願通信祈禱も随時受付けております。

◎お参りの作法

神前に向かい、身を正して心を鎮めます。

- 一、一拝（深いおじぎをします）
- 二、祈念（両手を合わせて頭を下げ、神様への感謝とともに、自分の願いを念じます）
- 三、二拝（二回深いおじぎをします）
- 四、四拍手（両手を胸高にして、四度拍ちます）
- 五、一拝（深いおじぎをします）
- 六、神語を三回唱えます

（胸高に両手を合わせ、深く頭を下げ、心の底から一心に唱えましょう）

【神語】神様から御靈力を戴くことば  
**幸魂奇魂守給ひ幸へ給へ**

（さきみたま、くしみたま、まもりたまい、さきはえたまえ）

- 七、二拝（二回深いおじぎをします）
- 八、四拍手（両手を胸高にして、四度拍ちます）
- 九、一拝（深いおじぎをします）

◎出雲大社の御神札をお

祀り致しまし  
しように

出雲大社で授布している御神札を「**出雲大社御玉串**」と申します。この御神札には親なる神、大国主大神様の御神靈がお鎮まりしています。大神様の御神威を拝礼祈念する「御霊」で朝夕に敬拝することによって、大神様の御守護を戴くことが出来るのです。

また、御神札を戴く敬拝の心は、人間性の向上、家庭の幸福、社会の幸栄をむすぶ「縁」となるのです。

※類似の御神札にご注意！

◎本紙に関するご質問、その他不明な点がございましたら、お気軽に左記宛てお問い合わせ下さい。

**出雲大社函館教會**  
函館市高松町三二七―三  
〇一三八―五七―四六七七